

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：元島田東町自治会

開催場所：道下集会所

開催日時：平成 28 年 8 月 17 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分

参加者：自治会側【地域住民の方 17 人】

市側【染谷市長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 千葉自治会長あいさつ

- ・皆さんの日ごろ思っていることをお話いただきたいと思う。
- ・市長からも市政報告をいただけるということなので、本日はよろしくお願ひしたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・この車座トークは、68 の全部の自治会をまわるということで、最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部隈なくまわるという事は難しかった。今の島田の抱える課題、私の考え方を皆様に知っていただき、地域の皆様の行政に対する意見や、この地域の事情、特性を教えてください、それを市政に反映したいということでもわっている。
- ・また、今年、来年の 2 年をかけて次の総合計画の策定の作業を行っているが、その参考にもさせていただく。

■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

- ・元島田東町の 7 月 31 日現在の世帯数は 90 世帯、人口は 147 人で、高齢者人口は 62 人、高齢化率は 42.2%となっている。市の平均が 29.4%なので、高齢者の方が多い地域となっている。15 歳以下の人口は 9 人で人口に占める割合は 6.1%となっている。市の平均は 13.8%なので子どもの比率は低い。比較的一人暮らしの方が多いのかなと思う。団地は、だんだん地域住民が年をとって高齢者になるという課題があるが、この地区に限ったことではない。
- ・島田が今、一番課題だとしていることは人口減少。少子高齢化に歯止めがかからない状況は待たなしの対策が求められている。
- ・2025 年には団塊の世代が全て後期高齢者になり、2025 年から 2030 年にかけて高齢化率がピークを迎えるといわれている中で、2030 年には人口が激減していくと予測されている。また、2030 年には国内の住宅の 3 割が空き家になるとも推計されている。
- ・政治の役割の中で一番大切であるのは、弱い立場にいる人たちが安心して暮らせる（地域で住み続けることができる）ようにすることであり、行政運営の根本の部分であると言える。

- ・一方、人口減少に伴う税収の減少によって、今まで行政にできたことができなくなってきている。このため、「稼ぐ力」をつけて、仕事を増やし雇用を増やして、ここに住んでくれる人たちを増やす政策もしなければいけない。弱い立場の人も含めて全ての皆さんが安心して住みなれた地域で暮らせる街をつくっていくことが政治の根本ではある。
- ・2025年は団塊の世代が全て後期高齢者になり、国では医療費が年1兆円ずつ増えている。国の借金も、1,053兆円となっていて、国民一人あたりに換算すると830万円という。
- ・国はこの医療費の抑制に向けて、できるだけ健康でいてもらうこと、病院に入院しても早く退院できるようにすること、できるだけ自宅で療養できるようにするというような制度に改めようとしている。（施設から在宅へという動き。）
- ・この流れの中で、「地域包括ケアシステム」という地域で見守る体制づくりがはじまっている。これは、医療、介護、介護予防、住む場所、生活支援、これらをセットにして、行政と地域が連携してみているシステムのこと。
- ・島田も「新総合事業」といって、チェックリストを活用して、ホームヘルパーの派遣、元気教室への受講、家事の援助などのメニューを受けられるような事業に取り組んでいる。要介護にならない先進的な取り組みである。この地域では「はなみずき」に行っていただいて相談をしていただきたい。
- ・医療費が増える要因は、例えば、C型肝炎の薬は一錠8万円で、3ヶ月服用しなければならず、3ヶ月で720万円掛かる。でも、国民健康保険があるから、個人負担は月2万円しかかからない。オプジーボという肺がんの薬が新薬の認証を受けたが、1年間薬を飲む必要があり、1年間で3,500万円の薬代が掛かる。これも、個人負担は月2万円しかかからない。国民健康保険の掛金が高いと言われるが、こうした薬が開発され認証を受けると、掛金も高くなるを得なくなっている。
- ・こうしたことから、医療、介護、福祉の問題にお金が掛かることは行政にとって大きな課題となっている。
- ・皆さんにお願いしたいのは、地域で見守る体制をつくってほしいこと。行政で見守ることに限界がある。ご近所さん同士が声掛けをしていただくなど、そうした見守る体制、地域をつくっていくことが非常に大切になる。
- ・こうした集会所（道下集会所）も、皆さんが定期的集まる居場所づくりの場として活用していただきたい。居場所づくりに取り組むために必要な備品類の購入に係る経費の一部を市で20万円を限度に補助金を交付している。
- ・これからは、行政にお任せだけでは地域は良くなる。このことは、日本中どこにでもいえることだが、特に島田は10万人都市の良さを発揮して、ここに住む人が、住み心地の良さを、地域の隅々まで広げていくまちをつくっていきたいと思っている。

■市民病院の建替えについて

- ・造る場所は、今の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としているが、使いやすい形にしていきたい。
- ・基本計画までに決まったことは、病床数を445床程度とすること。

- ・床面積は 35,000 ㎡、7～8階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。
- ・今ある救急棟と健診センターは残す。救急棟は透析センターとして整備し、災害時の対応にも効果を発揮できるようにしたい。診療科目は今と変わらない。
- ・事業費は 247 億円を見込んでいる。現在、基本設計をやっていて、今年中には、もう少し詳細な内容を皆さんにご報告できると思う。
- ・健診センターでは、この4月から24時間訪問看護ステーションをはじめている。もし、夜中に具合が悪くなっても、かかりつけの医師の指示書があれば、ナースが指示書に従って医療行為ができ、安心して在宅で医療が受けられるというもの。(施設から在宅へという国の医療制度改革の流れに対応した取り組みである。)
- ・医師の確保については、市民病院は昔から京大系といわれてきた。
- ・しかし、京都大学からは、今後は面倒を見れないと言われている。昔は医局制度があって、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、行っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらおう有力なところとして、浜松医科大学をしっかりとっておきたいと思っている。浜松医科大学は医師の定員増を含めて、県内の学生を多く採っているので、今年あたりから医師が増えていく。私も定期的に浜松医科大学の学長を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。コンスタントに100人前後の医師が市民病院に勤務できるよう大学等に働きかけを継続していきたい。
- ・先ほど申し上げた事業費のうち、医療機器に50億円程度かかる。医療機器の充実を図ることも医師の確保には重要な要件と考えている。
- ・東側駐車場に新しい病院を建設してから今の建物を取り壊していく。市民の皆様の診療に影響が出ないように建替えを行っていく。
- ・工事の期間中は駐車場が不足するので、周辺の私有地などをお借りするなどして駐車場を確保したいと考えている。
- ・通院に裏道を使う方も多く、病院周辺のご町内の皆様にも御心配、御迷惑をお掛けしている状況の中、朝夕を中心とした渋滞の緩和のために、県道に右折レーンを整備していきたい。
- ・島田は市民病院しか入院する病院がないが、市民病院は機能が充実した拠点病院であるため、民間の病院が進出してこなかったともいえる。この拠点病院としての機能を残していきたい。
- ・開業医の高齢化が進んでいて、開業医のお子さんも医師が多いが、島田で開業してくれないため、往診していただける医師が減っている。24時間訪問看護ステーションを整備したこともこういった背景がある。一つのシステムとして、皆様が安心して住み続けられるまちをつくっていきたい。

■市民会館について

- ・5月から市民会館を壊し始め、できれば、島田の大祭に間に合うようにスピードアップするようと言っている。この秋までに、市役所の隣にある市民会館は更地になって、当面の間は駐車場とイベント広場、そして、中心市街地の災害時の避難場所等に使うようと思っている。

- ・市民会館はたくさんの方から再築のご要望をいただいているが、閉鎖になる直近の5年間について、本番でホールを使っていたのは、年間で30日ほど。リハーサルを含めても、50～60日。市民会館について、新しく同じものを造るとなると、単独で建てれば70～80億円になると考えられる。
- ・こうしたことから、しばらくは我慢していただいて、おおり、夢づくり、チャリムという、600人余を収容できる施設が3つあるので、しばらくその施設の稼働状況をみていきたい。
- ・また、市役所も築53年と老朽化が進んでおり、おおりも築34年であることから、全体の施設の状況を考えながら施設整備のあり方を考えていきたい。
- ・高度成長期の昭和40年代に多くの公共施設が建設されている。このため、一斉に耐用年数を迎える。小中学校は25校あるが、最近建て替えたところ以外は、そろそろ建て替えを考えなければいけない時期を迎えている。
- ・優先順位を付けてやっていく必要がある。これからの時代は、10年先の島田市のために「今、何を選ぶのか」ということが必要な時代になっている。(自分の時だけいいという考え方では持続可能なまちづくりはできない。)
- ・市民会館の再築の要望は重く受け止めている。県内で1、2を争うほどの立派な施設ではあるが、早くできた分、老朽化するのも早かったということになる。少し時間をいただき、皆さんと優先順位を考えていきたいと思っている。

■「稼ぐ力」について

- ・新東名高速道路島田金谷IC周辺の84haを内陸フロンティアとして指定した。牛尾山も含め、全てを工業団地にしていくことは難しい。今、農振除外と受益地の除外に懸命であるが、目途が立ってきており、進出したい企業とのマッチングの話し合いも行ってきている。また、ここに進出したい企業がどのくらいあるのかについて調査をかけて、要望のある企業の現地説明会を行ったり、税制優遇措置、補助金等の制度の説明などの売り込みに力を入れている。
- ・国道473号と新東名が交差するところに「にぎわい交流拠点」をつくる計画。これは、島田市が中心となって、JA大井川、NEXCO中日本、大井川鐵道の4者が連携してにぎわい交流拠点を造ってほしいというもの。島田市は新東名の下を、国から占用許可をいただいて、1,000台弱くらいの規模で、富士山静岡空港のような無料駐車場を造りたいと思っている。そこに車を置いて、奥大井あるいは島田市内に人が回遊する流れをつくりたい。JAについては、農産品のマルシェ、魚のマルシェ、レストラン、物品販売、カフェ等をつくりたい。大井川鐵道については、そこに新駅をつくって、SLを見ながらお茶を飲むような場所をつくりたい。そこからSLに乗れるような基地にしていきたい。
- ・なぜ、ここに交流拠点をつくるのかというと、川根筋に誘客を考えた場合には、観光バスの走行距離500kmという壁がある。首都圏から往復の距離にして500kmが島田金谷インターチェンジ付近になる。(観光バスの走行距離が500kmを超えると運転手をもう一人追加しなければならなくなり、経費も掛かるため、観光ルートとして敬遠されてしまう。)
- ・島田市で一番観光客を集めているのは、SLとトーマス。その次が蓬莱橋で年間約12万人が訪れる。
- ・島田市には多くの観光資源はあるが、ルートとしてつながっていないため、点を線で結ぶことを課題としながら取り組んでいきたい。
- ・川根地域は、温泉、パラグライダー、キャンプ場などの観光資源を活かした回遊性への取り組みができつつある。

- ・金谷中学校跡地に、5.5haの土地がある。空港から近く、お茶の郷からも歩いて行ける。ここについて、県と一緒に民間の力を活用して、大規模開発ができないか検討しており、インバウンドのお客様に対応できる施設等について検討をはじめている。
- ・中小企業の支援については、4月にオープンした産業支援センターの相談業務等を通じて稼ぐ力を促進したい。

■浜岡原子力発電所に係る安全協定の締結について

- ・県庁で、中電と県とUPZ圏内の5市2町（島田市、焼津市、藤枝市、袋井市、磐田市、吉田町、森町）が、地元4市（御前崎市、牧之原市、掛川市、菊川市）を除いた7市町で7月8日に安全協定を結んだ。この協定締結には2年5ヶ月かかった。その理由として、地元4市に準じる安全協定を結びたいということで、事前了解の規定に関する調整（それぞれの首長の思い）が難しかった。今回、ようやく安全協定を締結できた。
- ・環境放射能の測定を、地元4市は行うことが決められているが、5市2町も環境放射能の状況を確認するために測定を実施すると定めた。また、地元の4市について、県は必要と認める場合には浜岡原発に立ち入り調査を行うことができることとなっている。5市2町はその立入調査に同行できるということになった。立入調査の結果、必要であると認める時には、適切な措置を電力会社に求めることができる。地元4市の措置の要求があったときには、中部電力が5市2町に正しい情報を流すということになっている。地元4市の安全協定は原発ができた時のもので、3.11のような事故は想定していない安全協定。しかしながら、その協定を結びなおすことはなかなか困難。この安全協定の中には解釈書という措置要領に基づき、事前通知がされて、事前協議を通じて実質的に事前了解が担保されることとなっている。この事前了解は再稼働の事前了解ではなく、部品の変更などを想定しているもの。実質的に事前了解を担保できる形において4市と同様に5市2町もそれに準じたものとなっている。
- ・激しい議論の末にできた安全協定は評価したい。県とも連携をして市民の安心・安全を確保していきたい。
- ・浜岡原子力発電所の再稼働は議会でも認められない、10万人の市民の命を守る保証がないと認められないとお答えをしている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	■浜岡原子力発電所について 浜岡原子力発電所で事故があった場合に、(放射能)は島田にどのくらいで到達するのか。	●到達時間は正確にはいえないが、南風が吹いている時に島田に到達するといわれていて、この南風が吹く割合は年間1割もないと聞いている。 到達時間は、風向き、風速によって変わってくるので、何分とはいえない。
1-2	■風に乗ってくるということか。	●そのとおり。原発を中心にして、東側に住んでいる人たちは東へ、西に住んでいる人たちは西へ逃げていくと思う。また、県の避難計画では、地元4市から先に逃げることになっている。この人たちが島田の方向に逃げ

		てくるのに、島田市民はそれを待ってられないと考えている。そういう問題もある。安定ヨウ素剤を飲めば甲状腺を守ることはできるが、医師の説明が必要なので、配布のタイミングも課題となる。
2	<p>■道下集会所の備品整備について</p> <p>この集会所にはエアコン、テレビ、カラオケもない。他の町内ではあるのに。他の町内では市の補助で整備していると思うが。市からの支援はないのか。</p>	<p>●ここは雇用促進住宅なので、以前は国の施設であったと思う。このことから、国から引き継いだ機関が整備することとなると思うが、例えば「老人憩いの家」として指定をすれば、市は老人憩いの家としての備品等の整備についてお手伝いできる。また、居場所づくり事業を地域の中でやっていただけるのであれば、備品等の整備に対するお手伝いもできる。</p> <p>したがって、この施設の位置づけによって市の援助が入るような形にしてもらおうということがひとつの方法であると考えます。</p> <p>また、地域でまちづくりの事業をしたいということであれば、まちづくり支援事業交付金の制度がある。これまでは単年度で10万円、もしくは30万円だったものを、6年間継続した事業に交付するという形に変えてきている。6年間で180万円までみることができている。プレゼンテーションは必要(9月末)となるが、5月末のプレゼンテーションは16団体の応募に対して、全ての団体に交付金が交付される予定となっている。</p>
3	<p>■老人憩いの家について</p> <p>最近、老人憩いの家の看板を降ろす町内があると聞いているが。看板を外して公民館の整備をしているケースがあると聞いている。</p>	<p>●私の耳には入ってきていない。</p> <p>公民館(公会堂)を憩いの家だけではなくて、子育て支援の事業で活用したり、多機能で公民館(公会堂)を活用していく動きの一つではないかと考える。</p>
4	<p>■個人情報について</p> <p>個人情報なので開示できないと言うことが災いして、隣近所の方を助けられない、見守れないということが懸念される。どこまで踏み込んでいいのか。</p>	<p>●個人情報については、今の日本は厳しくしすぎではないかと考えている。何のための個人情報なのかということ。その人を助けるための個人情報である。島田市は個人情報の基本のところ、すなわち、氏名、住所、性別、助ける必要がある人(べき人)ということが必要が生じれば出すことにした。</p> <p>何のための個人情報なのかを考えた時には、本人の了解がなくても、極限の場合には開示できるものと考えている。</p>

5	<p>■市民病院の受診について</p> <p>孫がインフルエンザになって高熱があったため、市民病院に連れて行った。喘息で市民病院に受診している子なので、それもあって市民病院に連れて行った。しかし、予約制になったので診れないといわれた。高熱で、喘息の既往症もあるのに診てもらえなかった。</p> <p>そういう子を個人病院に連れて行けということはいかがか。納得ができなかった。</p>	<p>●その看護師がどういう状況でその話をしたのか分からないが、「ちょうしんき」(年4回発行)の裏表紙に予約なしの診療科目、必要な科目が記載されている。3分の2が予約なしで診察を受けられることになっている。</p> <p>小児科がなぜお断りしたか定かではないが、服部事業管理者が自ら予約なしの患者さんを診るといっている的那种な対応は申し訳なかった。千人以上の患者さんがお見えになるので、長時間お待たせすることもあり申し訳ない。</p>
6-1	<p>■市民会館の取り壊しについて</p> <p>取り壊した後は、建てなおすのかと思っていたが全て駐車場になってしまうのか。</p>	<p>●今すぐ建替えはできないという話。優先順位として今すぐにやらなければならないのは市民病院。</p> <p>市役所を建て直すとしたらあそこの土地しかない。これからの公共施設を整備していく場合には複合施設という方法が考えられる。マンションと区役所という整備方法も取り入れられている。知恵と優先順位で整備をしていく必要がある。</p> <p>同様に、島田市の道路延長は1,180km、橋は1,154橋で、5年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持していくことがメインとなっている。長寿命化への取り組みが必要。</p> <p>明日は今日よりも必ず良くなる時代だったが、今は、土地の値段は上がらない、リストラ、非正規など、窮屈な社会で特に若い人にとって生きにくい時代になった。</p> <p>島田市における初婚の年齢は女性が29歳、男性が30歳となっている。そうすると子どもについて3人、4人は産めない。一生結婚しない人は男性で15%もいる。そうすると子どもの数はなかなか増えない。</p>
6-2	<p>■それは(結婚)したいけどできないからではないのか。</p>	<p>●(結婚)したいけどできない状況は、市の事業だけでは解決できないと思っている。大学を出て10年間働かないと一人前になれないような状況や、育休、産休がとりにくい社会では、なかなか子育てはできない。なにより、若い人たちが結婚したいという社会にしていくことが必要。一生懸命働いても、夫婦で300万円に満たない収入の世帯もある中で、アパート</p>

		<p>を借りるための支援について対策を練っていかなければならない。</p> <p>こども医療費をタダにすることについては、島田市は今、1回500円いただいている。これをタダにすると、あと7千万円以上の経費がかかる。</p> <p>給食費は材料費しかもらっていないが、それでも島田市で年間4億円を超える。この4億円をタダにするなら、どこかで4億円を削らなければならない。4億円あれば高齢者の支援に対しても、子育ての支援に対しても、教育に対してもできることはたくさんある。子育てする人にとって必要かという観点からは、親育てということも考えながら施策を講じる必要がある。</p>
7-1	<p>■高齢者福祉関係の窓口について</p> <p>地域包括支援センター、社会福祉協議会、福祉課があるが、具合が悪くなった場合に、一番先に行かなくてはならぬ場所はどこか。</p> <p>※体が悪くなるとは、それによって働けない、お金がない、身内もいないといった場合のこと。</p>	<p>●一番身近で行けるところは、地域包括支援センター（高齢者あんしんセンター）が賢明であるといえる。生活における悩みなどの相談窓口になっている。福祉課までお越しいただけるのであれば福祉課で生活の支援などについてご相談に乗れると思う。相談の内容によって支援の中身は変わると思うが、高齢者あんしんセンターでまずは御相談いただきたい。</p> <p>社会福祉協議会は、社会福祉法人なので、生活困窮の方への貸付制度や、入浴サービス、成年後見人などの事業も行っている。</p>
7-2	<p>■9月には包括支援センターの職員を招聘して、介護保険サービスの指導を受けようと考えている。介護保険料を支払っていてもどのようにサービスをつかったらいいのかわからないので指導してもらおうつもり。</p>	<p>●介護保険料を支払っていてもサービスを受けられないということについては、サービスを受けないにこした事はないが、保険料を支払っている人の約2割の人がサービスを利用している。介護認定をうけていなければ介護のサービスは受けられない。要支援でも受けられるサービスとして、生活指導員の派遣があるが1時間200円。週1回1時間の派遣で月800円。自立生活支援事業といって、ヘルパーさんに来てもらうものは、1時間150円。週2回使っても月1,200円。ヘルパーさんが排泄の世話からすべてやるということであれば、介護保険の自己負担割合は概ね1割。一ヶ月の目安で概ね1,200円程度。安価で安心して使っていただけたらと思う。</p> <p>ただ、使わないで健康でいられることが一番だと思っている。</p> <p>通所型のデイサービスもあるので活用をしていただければと思う。</p>

		24 時間訪問看護ステーションも 1 割の負担。
8-1	■志太榛原救急センターの利用料金について 夜間の救急センターの料金は高いと思うが。	●夜間の割り増しがある関係上高くなっている。 救急センターは御前崎から焼津市までの範囲の自治体が負担金を支払っている。利用者割と人口割を合算した額について負担している。 医師会が病院でやってくれている休日急患にも市は委託料を支払っている。 【志太榛原地域救急医療センターの診察料金について】 後日、調査したところ、初診料に加え、4,200 円の「時間外選定療養費」がかかるということです。
8-2	■何十倍ということはないよね。	●何十倍ということはないと思うが、市民病院でさえ、紹介状がないと 5,000 円くらい上乗せされるかもしれない。これは国の制度として、診療所の紹介状を持って救急病院に行くこととしているので、市民病院で初診を受けると、その初診料が上乗せされることがある。高度医療の患者さんだけを診ていくという救急病院の位置づけの中での料金の制度となっている。
9	■市民病院の診療代について 市民病院にかかっているが診療代が高い。特に薬が高い。	●診療点数はどこでかかっても同じ。後期高齢者になると安くなると思う。
10	■高齢者の祝い金について お祝い金として 100 万円が出るのか。	●100 万円は出ない。皆さんが元気で長生きでいてくれることで、高齢者の皆様への節目の祝い金が 2 倍から 3 倍になっている。
11	■女性の参画について いつも、町内の会合では男性ばかりだが、本日は女性にこれだけ参加していただけてうれしい。	●世の中、男性と女性は半分。女性の視線、男性の視線をもって物事が立体的に見える。 女性の皆様には、声を上げればまちは変わることを実感していただきたい。女性の方たちが参加いただけることが必要であり、ありがたいことだと感じている。
12-1	■雇用促進住宅の今後について ここも後、5 年くらいかなと思っている。	●この雇用促進住宅は、建てられて 49 年経過している。国は雇用促進住宅について、新しいものは建てないという方針を決定している。 廃止すると決めてもなお、そこから 10 年間はその機能を維持しなければ

		ばならないという法律がある。ここをいつ廃止すると言う話が来ていないのであれば、道悦島の事例からも、廃止と決まってから10年間は住む権利があると考えている。入所者の退去等となれば、そういう通知が来るはずである。すぐに出ていってくださいということはないと思う。
12-2	<p>■市営住宅について</p> <p>ここが廃止になったら市営住宅に入れるのか。</p> <p>入居の際には保証人は必要か。</p>	<p>●その方の収入、世帯の状況、空き室の状況などによる。</p> <p>所得の証明は必要だと思う。</p> <p>【市営住宅入居の際の保証人について】</p> <p>後日、調査したところ、入居の際に2人の保証人が必要です。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

